

バラバラにされればわたしたちは倒れる。団結すればわたしたちは立つ。

来年も女性部へのご協力よろしく
お願いします



愛知県職連合女性部しんぶん

あゆむ

第328号 (2018年12月)

発行 県職連合女性部

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号

愛知県東大手庁舎4階

直通 052(951)4036

FAX 052(972)0649

FAXフリーアクセス 0120(930)340

http://www.aichikenshoku.gr.jp

E-mail josei18@aichikenshoku.gr.jp

発行責任者 宮前奈美子



議案に賛成する
代議員の皆さん



女性部第13回定期大会

女性の視点から職場を改善 男女とも働きやすい環境を求めて

12月5日(水)、名古屋都市センターで、女性部第13回定期大会(代議員定数107名出席27名、委任状提出69名、欠席11名)を開催しました。

大会では、県職連合長田副執行委員長、宮前女性部長のあいさつに続き、2018年度活動の報告と2019年度活動方針の提案があり、賛成多数で承認されました。

女性部長あいさつ



宮前女性部長

平成30年度県人事委員会勧告では、「長時間労働の是正」や「仕事と家庭の両立支援」等が報告されました。しかし、ワークライフバランスが求められる一方で、働く女性の場合、「ライフ」の中にも「ワーク」が含まれており、それも含めた上でのバランスが大切

だと思えます。

人権週間啓発ポスターに

「先に帰宅した方が夕飯当番、これが私たち夫婦の人権アクション」という標語がありました。このような家庭での役割分担と同様、職場の中の男女平等も女性側から発信していかないとなかなか変わりません。

女性部は各職場から発信された皆さんの意見を基礎に、男女ともに働きやすい職場環境を整備するため、活動していきたいと考えています。



2019 活動方針 (抜粋)

女性組合員の生活と権利を守る運動を基本に、組合員一人ひとりの声を大切に、女性組合員の視点から見えた要求を掘り起こし、組合本部と連携してその実現に向けた取り組みをすすめます。

運動の基本目標

- ① 「女性の要求」の実現に取り組みます
- ② 女性組合員の声を大切にします

組織活動の基本的方向

- ① すべての女性組合員が参加できる女性部をつくらます
- ② 組織を強化し、組合員の参加で活動をすすめます
- ③ 学習・教育活動を強化し、交流をすすめます

運動の具体的な進め方

女性は職場の重要な人材として、働いています。

女性組合員の生活、権利の向上や、職場環境の改善などをめざして、県職・病院組合の本部と連携し、支部や分会を大切にして、活動を行います。

○「女性の要求」の実現にむけて

女性の視点から要求を反映させるため、「女性の要求」討論資料を作成し、組合本部の総合要求・職場要

求に女性組合員一人ひとりが参加できる取り組みを進めます。

○安心して働き続けられる賃金・労働条件の確立と男女平等をめざして

・育児に関する制度が利用しやすくなるよう、時間外勤務の縮減や適正な人員が配置されるよう、取り組みをすすめます。

・女性の健康と母性保護、育児、不妊治療に関わる権利の充実に向けた取り組みをすすめます。

・介護にかかる制度の充実を求めていきます。



・昇任昇格における男女間の格差の解消にむけて取り組みます。

○組織強化・交流を深める取り組み

・支部三役会議を開催し、その時々課題を明確にするとともに、支部等の活動状況を報告し、取り組みの参考とします。

・役員学習講座を2月（予定）に開催します。

・分会女性集会が開催できるよう援助します。

・女性部のあり方について本部・支部等で話し合う機会を作ります。

・女性交流レクリエーションを開催します。

・女性を取り巻く様々な問題について学び、考え、交流する場として学習会を開催します。

・女性組合員の学習・交流の場として、機関紙「あゆみ」を発行します。

支部活動の報告



○尾張支部

今年、28分会を7グループに分けて、分会の平等性が保てるような役員輪番を再確認し、役員は2年交代とするが、同じ分会内なら人が代わってもよいという決まりを作りました。役員マニュアルも整理したのでレク等の活動も再開できるようになっていきたいです。

○尾西支部

役員輪番については分会を地区ブロックに分けて毎年見直しており、役職を決めるときに組合員数で調整しています。今年も、産休・育児組合員は員数に含めないことを、ルールとして明確にしました。

○知多支部

今年も終業後の時間に「ヨガ」の体験レクを行い、15名の参加があり、レク後には次年度のレクの希望内容などについて話し合いました。機関紙も1回発行しました。

○東三支部

今年もレクとして「竹島水族館見学とランチ」を実施し、機関紙を1回発行しました。

○コロー支部

学習会は24名の参加で実施。レクは今年も大人向けに「陶芸体験とランチ」で企画したところ40名の参加で実施できました。機関紙は2回発行し、活動紹介などを発行しています。来年度から組織再編となるため今後の運営は不透明です。

○病院組合

4病院で構成されていますが、来年度、愛知病院が岡崎市市民病院に移管されることから、4病院として最後の女性交流会を蒲郡ラグーナで開き、普段交流できない職員と情報交換することができました。役員で日本母親大会に参加し、今後の業務にも活かせる経験ができたと思います。

○本部

毎年新しいメンバーでやってくる支部が多く、運営は大変なことも多いと思いますが、各支部レク等はできるだけ継続し、分会同士の交流を継続してもらいたいと思います。本部として支援できることは何かを考え、皆さんの意見を聞きながら、皆さんに必要とされる女性部になるように、活動を進めたいと考えています。



1年間ありがとうございました

2018年度本部役員を退任されたみなさん。

(右から)

加地 恭子 (畜産課)

伊佐治由紀子 (職員厚生課)

伊藤 香織 (企業庁総務課)

水上 優子 (農業総合試験場)

高橋 勤子 (産業技術センター)

安藤 和美 (東三河建設事務所)

東條かおり (コローこばと学園)

※写真掲載なし

立川 祐子 (がん中央病院)

林 永梨 (一宮児童相談センター)

大野早紀子 (知多福祉相談センター)

本部役員女性紹介の



★部 長
宮前奈美子

(尾張支部
尾張福祉相談センター
分會)
2018女性部の活動は、本部も支部もこれまでの活動を維持することが難しくなっていることを痛感した年でした。しかし、私たち一人ひとりが声を上げていかなければ、職場はますます厳しくなっていくことも事実です。
組合員の声を大切にしてい、女性組合員の要求実現を少しでも前に進めることができるよう、皆さんの力を借りて取り組んでいきたいと思えます。



★副 部 長
嘉津山瑞穂

(病院組合
がんセンター中央病院
分會)
女性組合員の皆様が、安心して働き続けるために、何ができるのか一緒に考え、少しでも貢献できればと思っています。よろしくお願いいたします。



★事務局長
東條かおり

(こばと支部
こばと学園分會)
女性が喜び企画をしていきたい。
お役に立てるよう努めたいと思えます。



★常任委員
高臣綾子

(本庁舎支部
交通対策課分會)
働きやすい環境づくりにお役に立てるよう、微力ですが、頑張ります。



★常任委員
後藤佳恵

(西庁舎支部
地球温暖化対策課分會)
至らないこともあるかと思えますが、少しでもお役に立てるよう頑張ります。



★常任委員
藤田智美

(尾張支部
尾張農林水産事務所分會)
組合活動はほとんど経験がありませんが、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思えます。よろしくお願ひします。



★常任委員
久田夏未

(尾西支部
海部農林水産事務所分會)
女性部組合員の皆様のお役に立てるよう頑張りますので、1年間よろしくお願ひいたします。



★常任委員
相馬実佳

(知多支部
知多福祉相談センター分會)
わからないことも多いですが、頑張りたいと思えますので、よろしくお願ひします。



★常任委員
重松 香

(西三支部
西三河福祉相談センター
保護課分會)
一生懸命頑張りたいです。よろしくお願ひ致します。



★常任委員
田村奈巳

(東三支部
豊川保健所分會)
労働環境が良くなるように、頑張りたいです。



★常任委員
加藤実穂

(こばと支部
こばと学園分會)
女性部は初めてなので、委員の役割と仕事を覚えて、皆さんと頑張りたいと思います。



★常任委員
山崎真弓

(税務支部
名古屋南部国税
事務所分會)
女性部の活動は初めてですが、精一杯努めさせていただきます。

※5回にわたり、愛知の花に関して紹介します。

花の王国あいち Vol.4



あいちの花の生産 55年連続日本一です！

Flower Kingdom, Aichi



菊で制作した動物

これまで4回にわたって花の王国あいちの取組をお届けしてきましたが、最終回は愛知県で多く栽培されている花について紹介しましょう。

愛知県は、花の生産が昭和37年から55年連続で日本一の「花の王国」です。

農林水産省の生産農業所得統計によりますと、平成28年の愛知県の花の産出額は572億円で、2位の千葉県約3倍となっています。

種別では菊が最も多く、230億円と県全体の約4割を占めています。全国の約3分の1の出荷量を誇り、日本一の産地となっています。菊は、古くから日本人に親しまれてきた花で、広く冠婚葬祭に使われています。近年では、花の色や形がバラエティーに富んでいるスプレー菊や、緑やオレンジなどの新しい色の輪菊が多く開発され、様々なフラワーアレンジや花束に利用されるようになりました。

愛知県農業総合試験場

では生産者と協力して菊の育種をしており、最近では国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（量研）と共同で「かがり弁」と呼ばれるフリルのような花びらが特徴的な菊を開発しました。華やかなイメージで、ブライダルや生け花での利用が期待されています。

菊に次いで県内産出額が多い洋らんは、全国の産出額の約5分の1を占め、日本一の産地となっています。洋らんには、胡蝶蘭やシンビジウム、カトリアなど多くの種類があります。中



（愛知県農業総合試験場が量研と共同で開発した「かがり弁ぎく」）



（胡蝶蘭の栽培風景）

も胡蝶蘭には「幸せが飛んでくる」という花言葉があり、縁起の良さや、華やかな姿から贈答用として、人気があります。

バラも県内産出額が25億円で、日本一の産地となっています。近年、様々な品種が開発され、多様な花色や花型を楽しめるようになりました。また、バラはもともと美しい花として、常に上位に入っており父の日の贈り物にもなっています。

とかく観賞期間が短いと言われているバラですが、次のような工夫で長く花を楽しめます。

家に持ち帰ったら、まず水上げしてください。日々の管理では、こまめに水を換えることや、市販の切り花鮮度保持剤を利用するなど、水中のバクテリアの発生を抑えることがポイントです。

このほかにも、観葉植物、カーネーション、シクラメンなど、県内全域で地域の特色を活かした多種多様な花が生産されています。特に東三河地域では、県全体の約7割の花が生産されており、花の一大産地を形成しています。

花は、生活に潤いや安らぎを与えてくれます。皆さんも、記念日や行事の際に花を贈るほか、花や緑を育てたり部屋に飾るなど、暮らしの中にあいちの花を取り入れてみませんか。

（園芸農産課・津田千織）